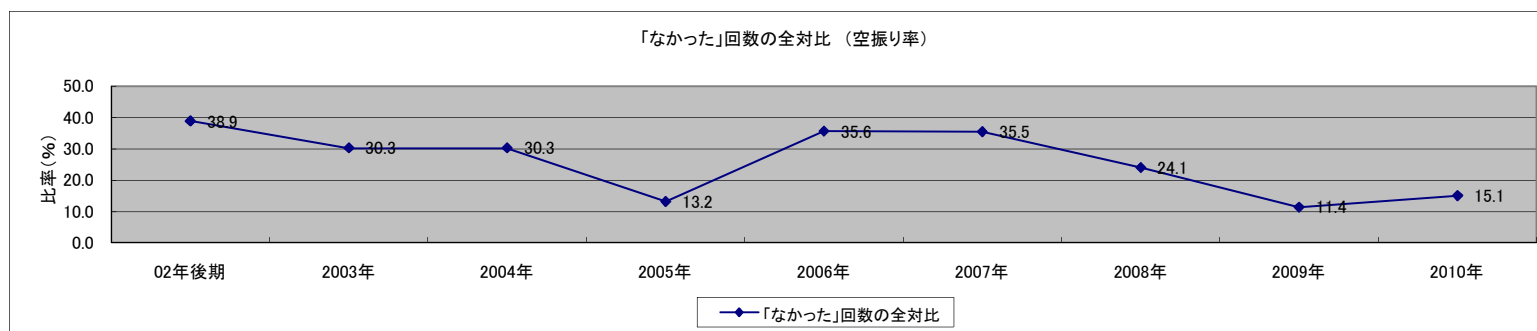
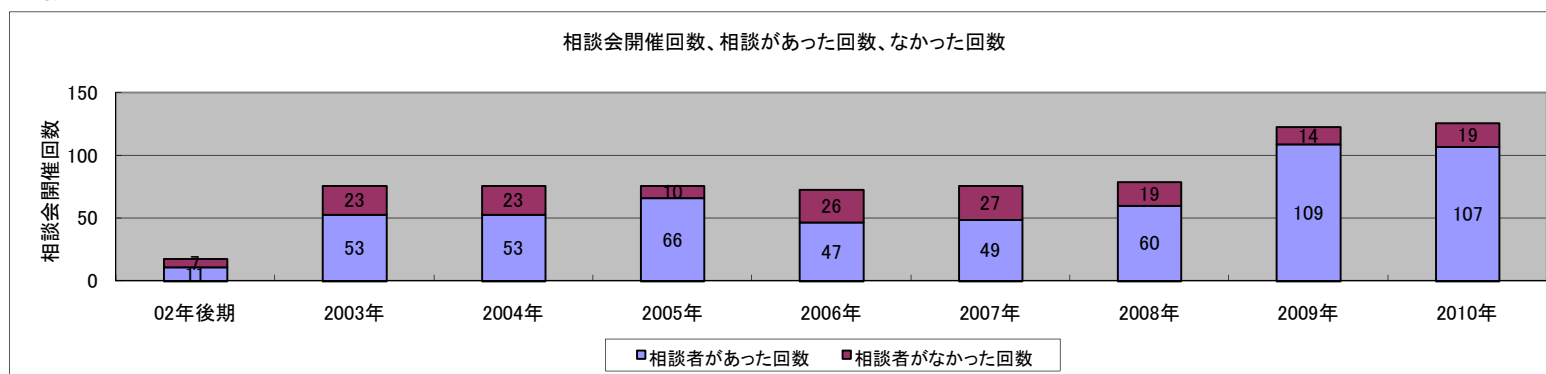


東京農工大学農学部進路・就職相談、2010年度実績まとめ
 (含む:2002年度後期～2010年度までの9年間の推移)

1 相談会開催回数、相談者があった回数、なかった回数

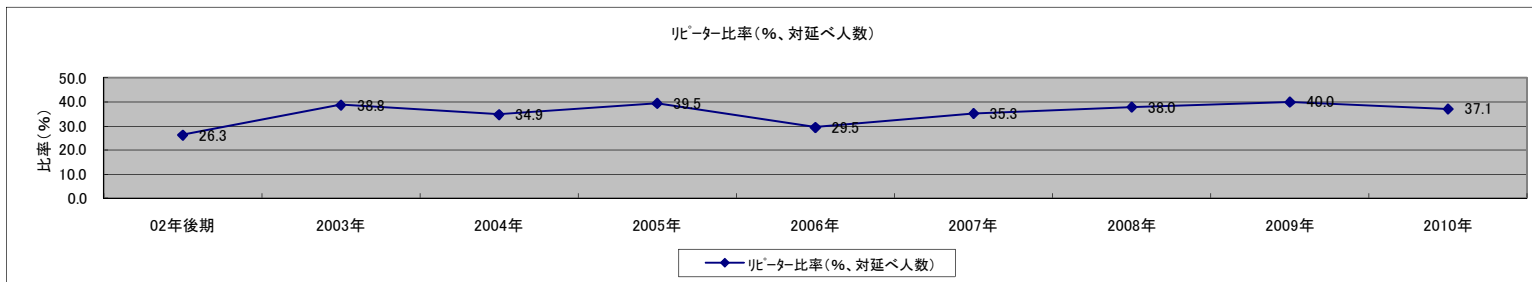
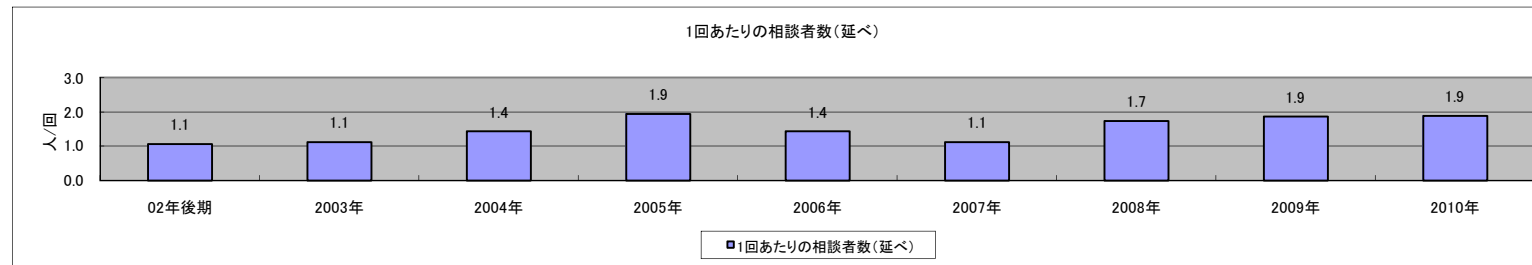
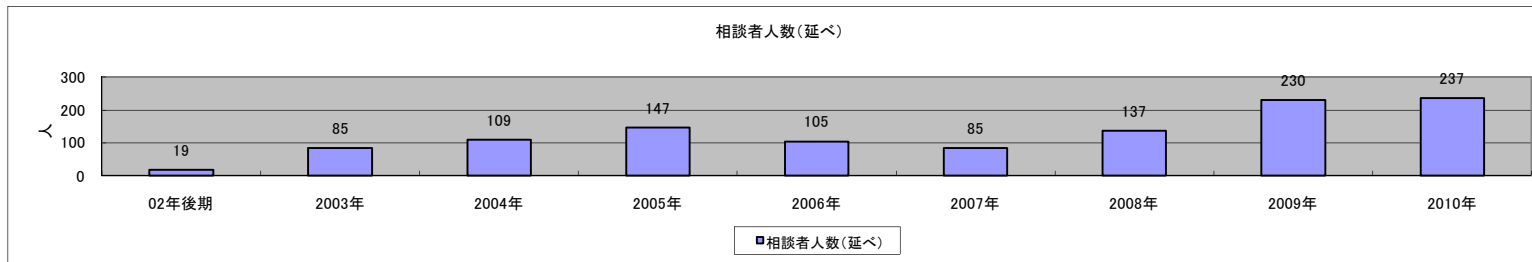
| | 02年後期 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 総計 | 10年前期 | 10年後期 |
|-------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 相談員人数 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | — | 3 | 3 |
| 開催回数 | 18 | 76 | 76 | 76 | 73 | 76 | 79 | 123 | 126 | 723 | 69 | 57 |
| 相談者があった回数 | 11 | 53 | 53 | 66 | 47 | 49 | 60 | 109 | 107 | 555 | 55 | 52 |
| 相談者がなかった回数 | 7 | 23 | 23 | 10 | 26 | 27 | 19 | 14 | 19 | 168 | 14 | 5 |
| 「なかった」回数の全対比 (空振り率%) | 38.9 | 30.3 | 30.3 | 13.2 | 35.6 | 35.5 | 24.1 | 11.4 | 15.1 | 23.2 | 20.3 | 8.8 |



2010年も相談員3人体制を続け、相談回数は前年を越えて130回近くにおよびました。予約学生は3割程度。集中時ほど予約外が殺到します。また空振り率は15.1%と前年同様10%台を維持、特に後期は10%を切りました。ただ前期末は夏休みにも開催したため、空振り率が増えました。

2 相談者人数

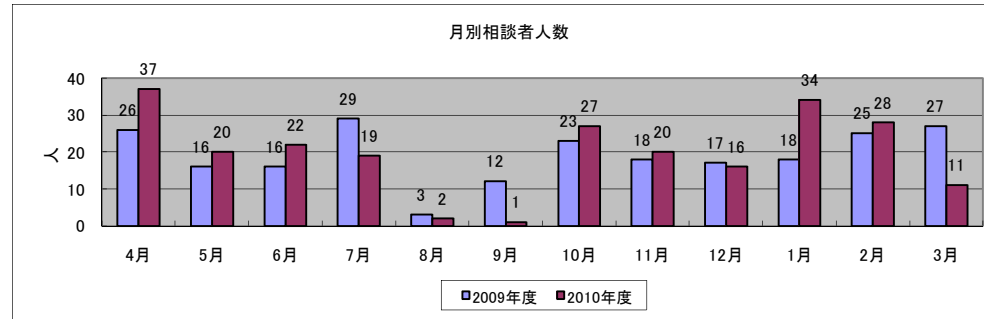
| | 02年後期 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 総計 | 10年前期 | 10年後期 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 相談者人数(延べ) | 19 | 85 | 109 | 147 | 105 | 85 | 137 | 230 | 237 | 1154 | 101 | 136 |
| 相談者人数(正味) | 14 | 52 | 59 | 89 | 74 | 55 | 85 | 138 | 151 | 717 | 70 | 81 |
| 1回あたりの相談者数(延べ) | 1.1 | 1.1 | 1.4 | 1.9 | 1.4 | 1.1 | 1.7 | 1.9 | 1.9 | 1.6 | 1.5 | 2.4 |
| リピーター数 | 5 | 33 | 38 | 58 | 31 | 30 | 52 | 92 | 88 | 437 | 33 | 55 |
| リピーター比率(%、対延べ人数) | 26.3 | 38.8 | 34.9 | 39.5 | 29.5 | 35.3 | 38.0 | 40.0 | 37.1 | 37.9 | 32.7 | 40.4 |



相談者の人数は過去最高の237人(前期101人、後期136人)に昇りました。1回あたりの相談者の人数は1.9人で過去最高(タイ)でした。開設以来の相談者総数は1154人に達しました。2010年度のリピーター比率は37%で安定した傾向を示しています。

3 月別相談者人数(2009年度と2010年度の対比)

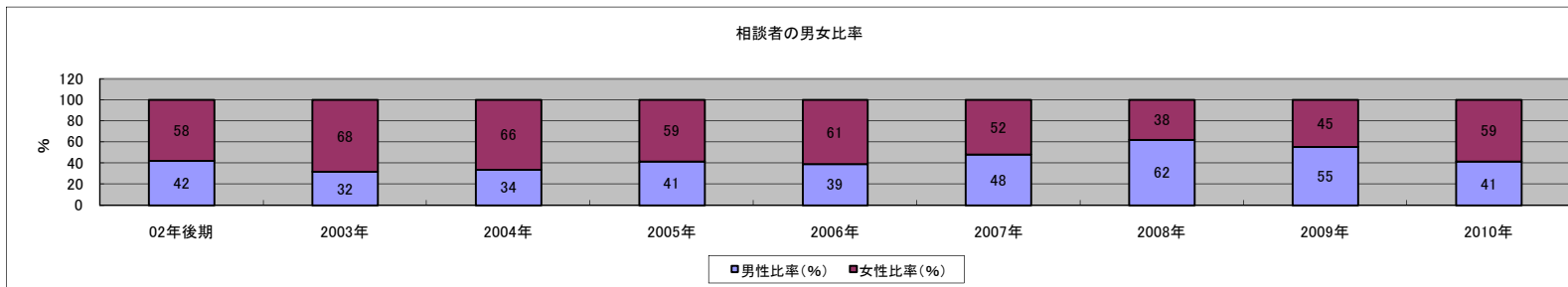
| 月 | 相談者人数 | |
|------|--------|--------|
| | 2009年度 | 2010年度 |
| 4月 | 26 | 37 |
| 5月 | 16 | 20 |
| 6月 | 16 | 22 |
| 7月 | 29 | 19 |
| 8月 | 3 | 2 |
| 9月 | 12 | 1 |
| 10月 | 23 | 27 |
| 11月 | 18 | 20 |
| 12月 | 17 | 16 |
| 1月 | 18 | 34 |
| 2月 | 25 | 28 |
| 3月 | 27 | 11 |
| 年間合計 | 230 | 237 |



2010年度は前年度より多くの月で相談者の数が上回りました。ただ前年多かった7月、9月に相談者が少なく、この時期開催回数を増やした目論見が外れ、空振り率を押し上げる原因となりました。3月に相談者少なかったのは大震災の影響と思われます。

4 相談者の男女別

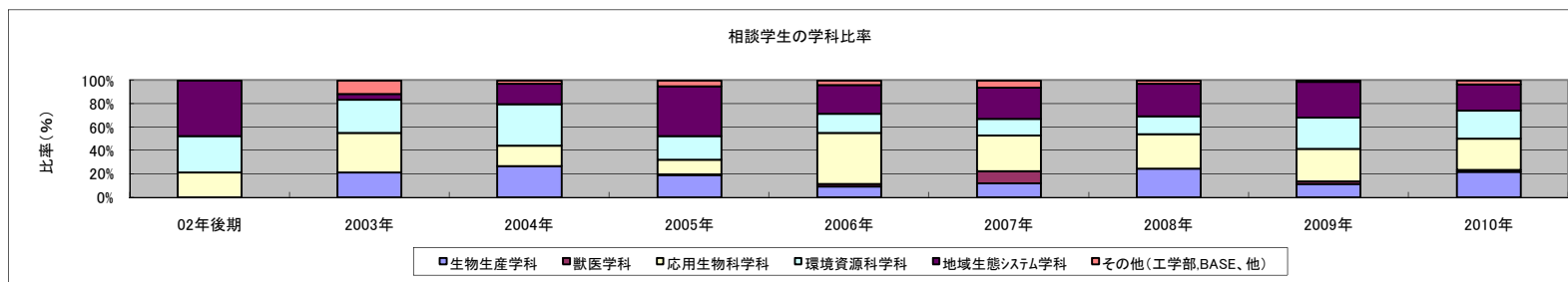
| | 02年後期 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 総計 | 10年前期 | 10年後期 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|
| 男性相談者人数(延べ) | 8 | 27 | 37 | 61 | 41 | 41 | 85 | 127 | 98 | 525 | 41 | 57 |
| 女性相談者人数(延べ) | 11 | 58 | 72 | 86 | 64 | 44 | 52 | 103 | 139 | 629 | 60 | 79 |
| 男性比率(%) | 42 | 32 | 34 | 41 | 39 | 48 | 62 | 55 | 41 | 45 | 41 | 42 |
| 女性比率(%) | 58 | 68 | 66 | 59 | 61 | 52 | 38 | 59 | 59 | 55 | 59 | 58 |



2008年度、2009年度は男性の比率が女性を上回りましたが、2010年度は女性比率が60%近くまで戻りました。世の中の景気に影が差し始めた2008年後期を境にして、2009年度は男女の比率が顕著に逆転しています。ただ2009年後期は女性比率が52%と僅かですが男性を上回りました。2010年度は前期、後期とも女性の比率が上回っています。

5 相談者の専攻学科(延べ)人数と比率

| | 02年後期 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 総計 | 10年前期 | 10年後期 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 生物生産学科 | 0 | 18 | 29 | 28 | 10 | 10 | 34 | 27 | 52 | 208 | 25 | 27 |
| 獣医学科 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 9 | 0 | 4 | 4 | 20 | 0 | 4 |
| 応用生物科学科 | 4 | 29 | 19 | 18 | 46 | 26 | 40 | 65 | 63 | 310 | 25 | 38 |
| 環境資源科学科 | 6 | 24 | 39 | 30 | 17 | 12 | 21 | 61 | 57 | 267 | 29 | 28 |
| 地域生態システム学科 | 9 | 4 | 19 | 63 | 26 | 23 | 38 | 70 | 53 | 305 | 18 | 35 |
| その他(工学部,BASE、他) | 0 | 10 | 3 | 7 | 4 | 5 | 4 | 3 | 8 | 44 | 4 | 4 |
| 全体 | 19 | 85 | 109 | 147 | 105 | 85 | 137 | 230 | 237 | 1154 | 101 | 136 |



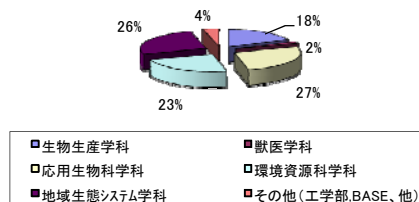
今年度は生物生産学科、応用生物科学科、環境資源科学科、地域生態システム学科の4学科がバランス良くほぼ均等となりました。
相談室開設以来の累積学科別比率は獣医学科を除き、これまで4学科でほぼ拮抗しています。

今年度は獣医学科からの相談者は4人、工学部からの相談者は6人(情工2人、生工2人、化工1人、応分化1人、いずれも学部生)、連大からは2人でした。
例年どおり大学院生は出身学科に含めています。
他大学からの院生は相当すると思われる本学の学科に入れています。

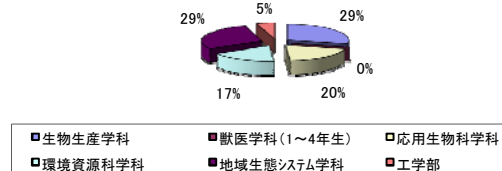
2010年学部学科別人数

| 学部学科 | 前期 | 後期 | 合計 |
|-------------|----|----|-----|
| 生物生産学科 | 23 | 15 | 38 |
| 獣医学科(1~4年生) | 0 | 0 | 0 |
| 応用生物科学科 | 13 | 13 | 26 |
| 環境資源科学科 | 7 | 16 | 23 |
| 地域生態システム学科 | 18 | 20 | 38 |
| 工学部 | 3 | 3 | 6 |
| 合計 | 64 | 67 | 131 |

相談室開設以来の累積学科比率(%)



2010年学部学生、学科別比率



2010年学府専攻(修士&博士)別人数

| 学府専攻 | 前期 | 後期 | 合計 | (%) |
|-----------|----|----|-----|-----|
| 応用生命化学 | 7 | 17 | 24 | 23 |
| 環境資源物質科学 | 7 | 11 | 18 | 17 |
| 物質循環環境科学 | 15 | 1 | 16 | 15 |
| 生物制御科学 | 5 | 8 | 13 | 12 |
| 自然環境保全学 | 0 | 8 | 8 | 8 |
| 生物生産科学 | 1 | 6 | 7 | 7 |
| 国際環境農学 | 1 | 6 | 7 | 7 |
| 農業環境工学 | 0 | 5 | 5 | 5 |
| 獣医学科(5年生) | 0 | 4 | 4 | 4 |
| 共生持続社会学 | 0 | 2 | 2 | 2 |
| 連合大学院 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 合計 | 37 | 69 | 106 | 100 |

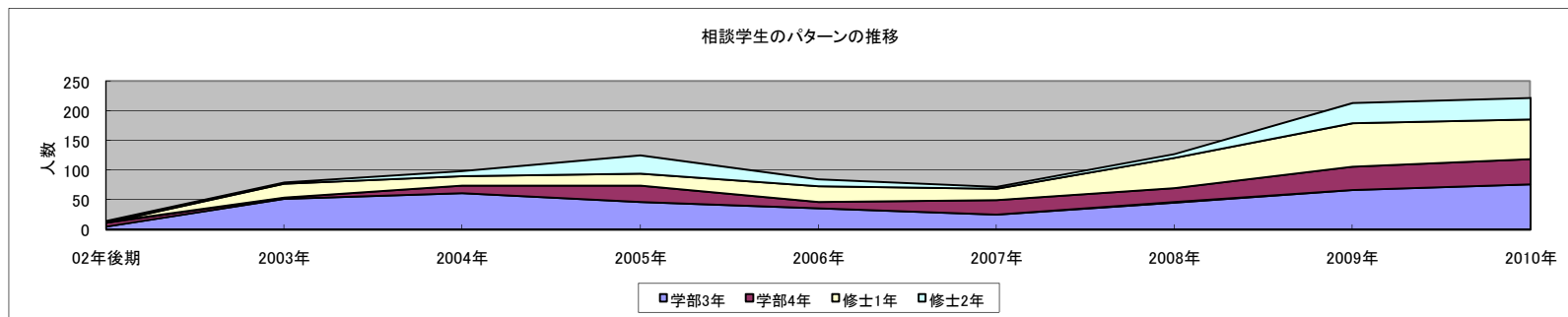
学部生は4学科ほぼ拮抗しています。
また前期、後期で学生数に大きな違いはありません。

大学院生は専攻により学生数に大きな差があります。
また同じ専攻でも、前期と後期とでは大きな差があるケースが数多く見られます。

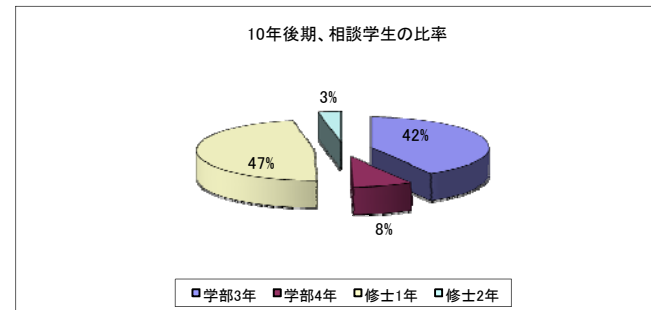
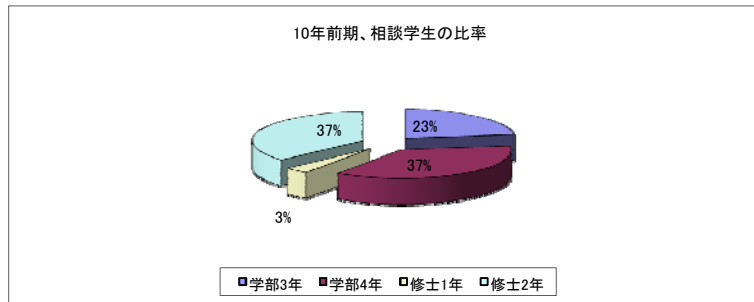
また大学院生は前期と後期で学生数に大差があり、後期は前期のほぼ
倍数近くとなっています。
後期の院生の数は学部生の数を越えています。

6 相談学生の学年

| 人数 | 02年後期 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 総計 | 10年前期 | 10年後期 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 学部1年 | 0 | 3 | 6 | 10 | 9 | 0 | 5 | 4 | 6 | 37 | 6 | 0 |
| 学部2年 | 2 | 1 | 4 | 1 | 3 | 3 | 2 | 6 | 3 | 22 | 3 | 0 |
| 学部3年 | 5 | 52 | 61 | 47 | 36 | 25 | 46 | 67 | 76 | 339 | 20 | 56 |
| 学部4年 | 7 | 2 | 13 | 27 | 11 | 25 | 24 | 39 | 43 | 148 | 32 | 11 |
| 学部5年 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 7 | 0 | 3 | 0 | 12 | 0 | 0 |
| 学部6年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 修士1年 | 0 | 23 | 16 | 20 | 26 | 19 | 51 | 73 | 67 | 228 | 3 | 64 |
| 修士2年 | 3 | 2 | 9 | 31 | 12 | 3 | 6 | 34 | 36 | 100 | 32 | 4 |
| 博士他 | 2 | 2 | 0 | 10 | 6 | 1 | 3 | 3 | 6 | 27 | 5 | 1 |
| 全体 | 19 | 85 | 109 | 147 | 105 | 85 | 137 | 230 | 237 | 1154 | 101 | 136 |

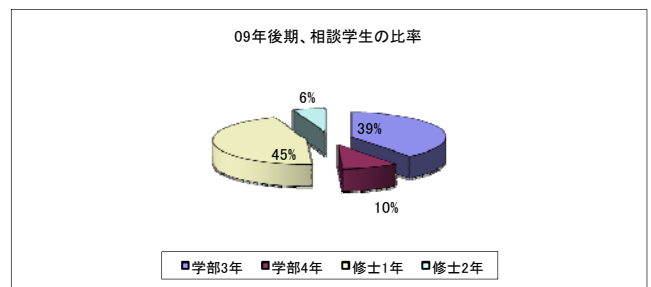
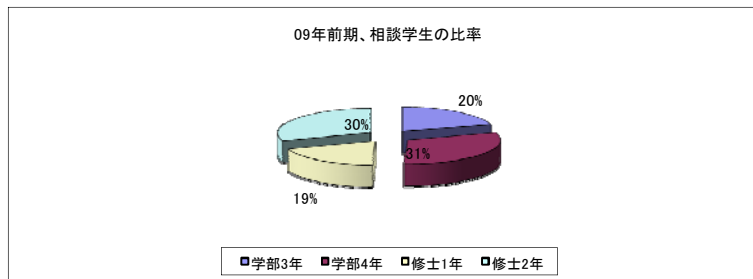


2008年以降、修士の学生が増えています。2009年からはとくに修士2年の学生が増えています。

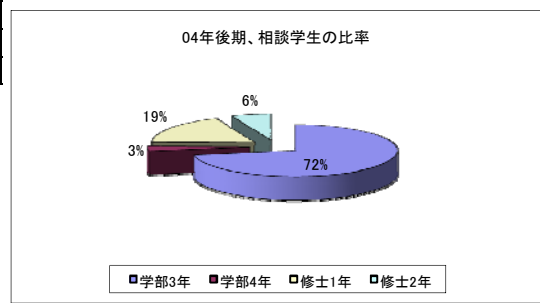
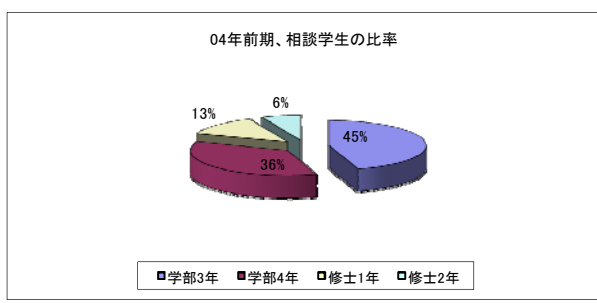


| 学年 | 09年前期 | 09年後期 |
|------|-------|-------|
| 学部3年 | 18 | 49 |
| 学部4年 | 27 | 12 |
| 修士1年 | 17 | 56 |
| 修士2年 | 27 | 7 |

相談者の多い、学部3、4年生、修士1、2年生の比率を前期と後期に別けて図示しました。前期は学部4年、修士2年が多く、次いで学部3年、修士1年が続きます。10年前期は今までになく修士1年が少ない現象が見られました。後期は修士1年、学部3年がこの順に多く、学部4年、修士2年の比率は大幅に下がります。後期は学部生より修士のほうが多い現象が2年間続いています。

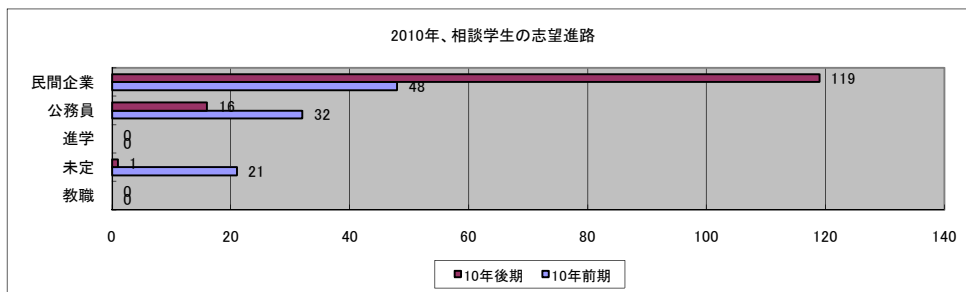


| 学年 | 04年前期 | 04年後期 |
|------|-------|-------|
| 学部3年 | 14 | 47 |
| 学部4年 | 11 | 2 |
| 修士1年 | 4 | 12 |
| 修士2年 | 2 | 4 |



7 相談者の志望進路

| 志望進路 | 10年前期 | 10年後期 |
|------|-------|-------|
| 教職 | 0 | 0 |
| 未定 | 21 | 1 |
| 進学 | 0 | 0 |
| 公務員 | 32 | 16 |
| 民間企業 | 48 | 119 |
| 全体 | 101 | 136 |



'09年後期は民間企業志望が圧倒的に多く、後期の特徴が良くでています。

2010年後期、民間企業志望業種の内訳

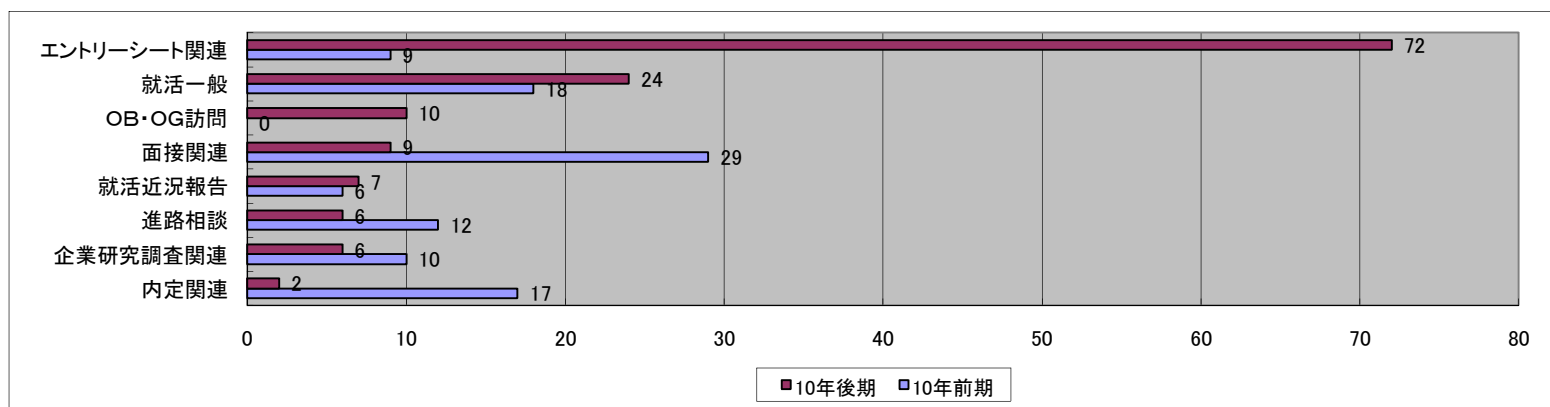
| 志望業種 | 件数 | 志望業種 | 件数 |
|------|----|--------|----|
| 食品 | 35 | 肥料 | 1 |
| 環境関連 | 7 | 化学 | 1 |
| 商社 | 6 | 建材 | 1 |
| 医薬 | 4 | マスメディア | 1 |
| IT | 4 | 水処理 | 1 |
| 林業 | 2 | 旅行 | 1 |
| 香料 | 2 | 運輸 | 1 |
| 芸能プロ | 2 | 化粧品 | 1 |
| 種苗 | 2 | 農協 | 1 |
| 住宅関連 | 1 | 合計 | 74 |

おもに、エントリーシート添削を希望した相談学生の志望先(エントリーシート提出先)です

8 相談内容

| 相談内容 | 10年前期 | 10年後期 | 合計 |
|------------|-------|-------|-----|
| 内定関連 | 17 | 2 | 19 |
| 企業研究調査関連 | 10 | 6 | 16 |
| 進路相談 | 12 | 6 | 18 |
| 就活近況報告 | 6 | 7 | 13 |
| 面接関連 | 29 | 9 | 38 |
| OB・OG訪問 | 0 | 10 | 10 |
| 就活一般 | 18 | 24 | 42 |
| エントリーシート関連 | 9 | 72 | 81 |
| 全体 | 101 | 136 | 237 |

今期の特徴として、エントリーシート関連の相談が数多くありました。
また就活一般の相談(就活をどう進めるかなどの)は今期も数多くありました。



9 所感と提言

2010年10月～2011年3月

今期相談に来た学生の特徴は下記の3点です。

1. 就職氷河期を認識して、就職活動の準備が早い。早目の相談が多い。
2. 失敗した場合、すぐに相談して、自分の欠点を是正する
3. 志望先を大手企業に絞らず、次善として中小企業就職も考えている。

そのためでしょうか、エントリーシートの通過率が高いように感じられました。

2～3月には第2志望群から内々定をもらって、第1志望群(大手企業)の採用試験に臨む学生が多くなっていました。

しかし震災で採用活動を延期する企業が増えています。おそらく、4～6月頃が就職活動のピークになるところでしょう。

学生は就職活動と学業の兼ね合いに苦労していると思います。

先生方！どうぞご配慮のほどお願い申し上げます。

茂田井相談員

1. 来室の学生の目的はエントリーシートの添削が多い。質問事項の流れに沿って順番に記入すれば、採用側が求めるものになるような「良くできたシート」となんだか、一般事項しか質問していないようなシートがあるようです。これにより、採用側の担当者の力量も垣間見ることができると思います。したがって採用側の期待した学生かどうか？を知るためのシートであろうから、それなりの書き方があるものと思います。それではどう書けばうまく行くか？など、学生と面談しながら、セールスポイントを探し、なんとか質問欄を埋めています。
2. 最初の書類審査段階で、落ちる学生もいるようです。本人はとて落胆していました。「先方のニーズに合わなかっただけで、本人の優秀・劣等を示すものでない。」と励ますこともあります。「そんな会社には、むしろ行かなくて良かったではないか？」と発言したこともあります。入学試験の延長のように考えてよいとも思います。就職の意味を理解して欲しいものだと思います。
3. 学部卒と修士修了で、就職先の仕事の内容がはっきり、異なっているようである。農工大農学部就職後の、活躍する(できる)位置と教育内容と充実を考える時期だと思えます。相談に来る学生のエントリーシートなどの質問事項から推察されます。
4. 現在の相談室の目的となっていない様であるが、就職先の開拓を学科教員は積極的に行うべきであろうと思えます。

加藤相談員

学生と面談しエントリーシートを読んでも自己の専門性と企業のつながりをきちんと説明出来ている学生は多くありません。

その理由の一つとして最近の農学部の学生は以前に比べ製造ということに馴染みが薄いことが挙げられるかも知れません。

昔は〇〇製造学という講義、〇〇化学という講義が沢山あり、殆ど必須科目でした。化学工学、工場管理工学、合成高分子化学も受講できました。

また工場見学も盛んに行われました。食品、醸造、医薬品、肥料、化学会社や農試、醸試、屠場などへ出掛け業界、企業、工場が見えてきたと感じました。

いま農学部ではミクロな生命現象の追求、マクロな生態系やそれと人間社会の関りなどが主流でいずれも生物学系、化学や製造学の比重は低下しています。

しかし農学部も、就職先の8割は製造業を中心とする民間企業ですから、製造に疎くなっている学生にその中味を伝え、これと自分の培ってきた専門性を対比させ、どの部分がどの業界、企業のどの仕事につながっているか、どうやって生かすことが出来るかを考えるきっかけ与えることが大切です。代表的な、特徴的な企業で活動している現役のOB・OG諸君に自己の体験を語って貰うことは大きなヒントや刺激になるでしょう。

こうした企画を体系建てて進めてゆくには、大学幹部が責任者となり専任の職員を配置したキャリア開発センターとでも云うべき組織、司令塔が必要です。

櫻井相談員